

社団法人 工学院大学 校友会

第106号

# 校友会報

33卷 1号

昭和60年4月



副都心超高層ビル群に囲まれる新宿校舎

## — も く じ —

○新学長より校友の皆様へ……………北郷 薫…表紙 2	○校友会各部会報告……………10
○高すぎる授業料……………今泉 勝吉… 1	総務部・財務部・企画部・事業部
○かけ出し時代……………鈴木 穎二… 1	○第39回評議員会・第29回総会開催のお知らせ……………12
○支部だより…………… 2	○昭和59年度事業報告書……………12
川崎支部・湘南支部・相模原支部・福岡県支部	○昭和59年度収支決算書……………13
北海道支部・千葉県支部・静岡県中央支部	○昭和59年度財産目録……………13
○賛助会費徴収のお願い…………… 5	○昭和60年度事業計画(案)……………14
○近況報告・学校法人…………… 6	○昭和60年度予算書(案)……………15
・大 学…………… 6	○学園の近況……………公 報 部…16
・高等学校…………… 8	○原稿募集・編集後記……………表紙 3
・専門学校…………… 9	



## 新学長より校友の皆様へ

工学院大学 学長 北郷 薫

私は昭和60年度より工学院大学の学長に任命されました北郷（ほんごう）と申すものです。工学院大学と私との出会いは昭和24年に始まります。昭和24年4月に本学園に当時の学制改革により新制大学として工学院大学が設立されました。初代の学長の野口尚一先生に招かれまして助教として工学院大学に奉職したのが昭和24年の10月でした。当時は日本が第二次世界大戦の敗戦（昭和20年8月）の痛手から十分には回復していない時代で国民の経済生活も豊かでなく大学への進学率が低く、大学として発足したばかりの本学への入学者が極めて少く、講義に行っても1クラス10人程度のことが多かったように覚えています。あの頃は本学としても最大の危機の時代であったと思われまます。しかし偉大な日本国民は世界の驚威、今世紀の奇跡である工業と経済の復興を成しとげたのであります。国民経済生活の上昇が進学率の上昇をもたらし、工業の復興が大量の工科大卒の卒業生を求めたことが幸いして、本学の学生数は昭和20年代の終わりから同30年代にかけて急速に増大し今日の隆盛の基礎が造られました。

昭和41年に私は工学院は大学の専任教員としての地位を離れて、本学との関係は兼任講師となっておりましたが、昭和58年に再び専任教授として復帰しておりました。

人々には自分が育った場所を愛する心が育ちます。自分の家を愛し、故郷を愛し、母校を愛し、自分が属したクラブを愛します。

美しい故郷、誇り高い母校、強い運動クラブを愛するのは当然でしょうが、厳しい環境の故郷、苦しい思い出が多かった母校、弱かった運動クラブも愛されるのです。利害関係のみしか関心がなかに見える人間社会のなかにあって、このような美しい心が残っていることは何という尊いこと

でしょう。校友会はこのように美しい母校愛による校友の結びつきにより結成されているものがあります。

工学院という学園は明治20年に発足した工手学校から数えると、もうすぐ100年になります。この長い間には本学園の校勢が隆盛を極めたときもあり、衰えたときもあります。在学したときの校勢の強弱にかかわらず、卒業すれば全て同じような母校愛をもって母校に声援を送って下さる校友の気持に答えるべく努力することは、本学に奉職するわれわれの大きい務であると考えております。

本学の伝統には誇るべき立派なものがあるにもかかわらず、とかく本学の校風は謙遜深いところがあり、実際の実力以下に見られる場合が多いことは残念でなりません。

空宣伝、誇大宣伝などは、われわれの最も嫌うところですが、実際の実力にふさわしいだけのことは言うように致しましょう。

現在、進行中の学園将来計画は本学の力を世間に見せるのに絶好の機会を与えていると申せましょう。学園将来計画においては、八王子校舎と新宿校舎との両方の立地環境をそれぞれ生かすことを絶対条件としている点であります。八王子では通常の郊外田園型の大学の良さを、新宿においては世界でも例が少く新宿副都心という立地環境を生かした独自の教育環境にある大学の良さを発揮させるのです。この計画が他大学の真似でなく本学独自のものである点が最も大切な点であります。工手学校は当時としては日本最初の私立の中堅技術者養成教育機関としての名誉を担いました。いまわれわれは日本最初の都心型大学としての名誉を担うべく努力中です。校友の皆様御理解と御協力を御願ひ申し上げます。



## 高すぎる授業料

建築学科教授  
今泉 勝吉

総理府は、昨年の4月30日防災に関する世論調査結果を発表した。それによると「災害」と聞いて先ず思い起こすことは「地震」であって、51%の国民は日本が災害で危険であると考え、その理由は65%の人が「地震」によるとしている。また大地震に対する心構えが出来ている人は全体の24%で、昭和51年の調査結果の39%と比べるとかなりなダウン現象である。非常持ち出し品を準備している人は29%、家具の固定をしている人は10%に過ぎないということである。特に大都市住民の災害に対する意識の弱まり傾向が著しいという。

「災害は忘れた頃にやってくる」という文章は、柳田邦男氏によれば寺田寅彦の著作の中にはそのものずばりの表現では見当たらないそうである。寺田先生は、関東大震災の惨状を目の当りにして、安政の地震をとりあげて「人間は過去を忘れ、過去の教訓を学ばなければならない」という趣旨のことを親友の1人に送った手紙の中でそのことを述べているとの事である。

最近「災害」も1つの「社会的なニュース」として取りあげ、その中から教訓を学び取って、それを生かしていくことは次第に苦手になっているようである。マスコミも政治的、経済的、社会的なショッキングな事件と同じようなレベルで興味中心に取扱いたがる風潮があるとしたら困ったものである。

教訓を忘れていく度に比例して、「災害」を起こさせる歪みも次第に蓄積されていって、極めて大きな代償を払わされてしまうのでは残念である。忘れることに平気になり、生かすことを考えない罰として巨大な損失を支払われる繰返しは何としてでもストップしなければならない。

余りにも高すぎる授業料だけに、「教え」を忘れないうちに「実行」できるような仕組みを構築して、安全な社会資本の充実に専心してもらいたいものである。



## かけ出し時代

電子工学科教授  
鈴木 穎二

30年以上になろうか、私が大学を出てメーカーの研究所に入って間もなくの話であるが、機械の振動について勉強しており、実験研究をやる傍ら、大形回転機械の異常な振動を止めるための試験に参加することも屢々であった。その中、2年程経った頃であったが、さる電力会社の古い火力発電機の振動が大きくて困っているののでらべてくれと研究所長に依頼があり、丁度人手が足りないこともあったのか所長から今回は私一人でやってこい、アシスタントはつけないということで、さあこれは責任が重いぞ、大変だと思いがらとにかく測定器など整え、現地に向ったわけである。機械の症状をしらべるためにいくつかの状態の運転をしてもらい測定を行ない一日は無事すんだのはよいが翌の日になったら電気課長に呼出され、運転状態を当方に無断で変えるのはけしからん、そのようなことは絶対許さんと大目玉を食ってしまった。直接面倒を見て下さった機械課の方はなぐさめて下さったが関係者への連絡は充分良くとらなければならぬことを身にしみて感じた。

振動症状の調整が終わって対策を施すのであるが、私の処方箋について現場の人の話ではそのような多量の薬を飲ませたことはないというので、ことによると大切な高価な機械をこわしてしまう恐れもあり、何とも心配であったが、何回かに分けて量を増し指定量で巧く振動はおさまってしまった。この時は現場の方も喜んでくれたし、私も一安心のものであった。発電所内で報告する段階となり所内の幹部を前に経緯を説明したが上記の課長さんも喜んで下さったし、また私にこの仕事の責任をもたせた研究所長もわざわざ立寄って下さり、労いの言葉をかけて下さったのは忘れられない。初めて責任のある仕事をまかされなし遂げられたことが非常に嬉しかったこと。（責任を持たせることの大切さ）、慎重であると同時に決断が必要であること、また関係者の充分な理解が大切であることが仕事を通じての教訓であった。

## □ 支部だより □

## 川崎支部設立30周年を前にして

川崎支部

副支部長 鈴木 和夫

—昭和30年初冬の或る日、木枯し吹く川崎駅頭に2人の紳士が降り立った。—

川崎支部の歴史はここから初まる。

詳しくは昭和30年11月28日、川崎支部の歴史の原点の日である。

そして昭和31年3月25日、全国で第11番目の支部として設立発足したのである。

来年昭和61年は設立30周年の記念の年を迎える。発足以来、毎年開く総会を未だ1回も欠かしたことがない支部である。

その間4代に涉って支部長が変わっている。

初代 猪瀬藤作氏 2代 石山愛敬氏

3代 関口城吉氏 現在 太田定吉氏

既に初代及び2代目の猪瀬、石山両氏は故人となられたが、支部設立当時の30年代初めには支部新設のためにその情熱と英知を傾けて今日の伝統ある川崎支部の基礎を作られた大先輩である。

支部としては明61年の記念すべき30周年に“川崎支部30年の歩み”を振り返り長く歴史に残すべく小史を編さんする計画でいる。

目下それらの資料収集に取り組んでいる。

この項をお読みの校友諸氏の中に、過去の川崎支部にまつわる諸々の資料(写真、統計、或は記憶にある個々のエピソード何でも結構です)をお持ち合せておられたら、是非支部までご連絡下さるよう、ご協力をお願いしたいと思います。

設立30周年を前にして、今年は恐らく歴史の編さんを中心に支部の事業はすすんでゆくことと思う。単なる年表史ではなく、その時代時代の校友会を取り巻く状況、或は世相を背景にして、川崎支部の歴史は冒頭の一節のようなはしがきで初まるであろう。

奇しくも学園も100年誌計画を建てている。少しでも支部の歴史が100年史にお役にたてれば幸いである。

## 湘南支部

昭和56年11月14日平塚市、茅ヶ崎市、高座郡寒川町、藤沢市、鎌倉市、逗子市、横須賀市、三浦市、三浦郡葉山町の9市町で湘南支部が誕生しました。湘南は古都鎌倉、江の島を始め風光明媚な東京のベットタウンとして全国に知られている高級住宅地域であります。昨年11月10日の全国大会も江の島グランドホテルで湘南支部を中心に神奈川5支部が協力して盛大に無事終了した事は御承知の通りでございます。

大変御協力いただいた各支部の各位に深く感謝申し上げます。さて湘南支部誕生に至る迄も紆余曲折あり決して安易でなく尚現在も困難に立ち向って頑張っている現状です。相模原支部が広地域のため、55年に相模原、湘南、小田原と3支部に分かれ各支部長は校友会本部の指名により湘南支部長には久保田伴治氏が任命されましたが第1回発足総会にて富所良二氏が選任され現在に至っております。

昭和55年4月に久保田氏は、支部長に任命されたが資金もなく支部長1人では如何とも出来ず3支部ともしばらくの間有名無実の支部でした。現支部長の富所良二氏は、長年鎌倉市に居住していましたが、一度も連絡がなく何支部に属しているかも知らなかったし、又現湘南副支部長の丹羽宏三氏は最近まで相模原支部の副支部長として本部に登録されており訂正したばかりです。このような状態の中で久保田・富所氏が中心となり、富所氏の会社の支店が藤沢駅前にあるので、ここを事務所とする事になり設立準備会を料亭玉半にて有志10名前後で4回の会合をして、昭和56年11月14日に藤沢市民会館にて第1回発足総会を開きました。

ところが準備中に久保田氏が脳血栓で倒れ入院してしまい、富所氏が自社の社員4~5名を使って各市役所で住民票の調査等を行い、学校からの名簿の訂正をして684名を確認し往復ハガキを出したが着信不明で戻りが124通、返信が327通計451通、残の233通は返信なしで、出席者は48名来賓6名計54名で総会が行われ富所良二氏が支部長に丹羽宏三氏と私杉山助一が副支部長に選任され、更に新支部長の提案で入院中の久保田伴治氏を名誉

支部長に推薦し、各役員の選任は支部長副支部長に一任する事で総会を終り、懇親会に入り盛会に夜10時迄続きました。ここに至るまでには、文章に書ききれない多くの問題がありましたが、支部長の富所氏が1人で精力的に走り回り頑張って解決し、又往復ハガキ684枚から印刷費まで、その外、料亭での会合費まで一切を富所氏が負担し総会の受付進行運営から後仕末まで富所氏の社員4名が湘南支部の役員のように奉仕していただいたので、盛会の中に無事終了したわけです。心より謝意を表します。

総会で特に全員一致で要望した事は、事務局を中心に会員の連繋を密にしてビジネスに又プライベートに会員1人1人がよく理解し利用しあって、全員メリットのある支部となり資金も造り、本部からの助成でなく支部から本部へ上納できるような支部造りを目標とする事に決まりましたが、元々資金無しのため中々進展せず(会員数十名の者は事務局を利用して公私共にプラスして喜んでいるようですが)何とか支部会員の半数以上が互いに交流し活用できたならと考えております。そうすれば会員の1人1人のメリットも大きく、同時に支部の資金造りにもなるのではないかと考えておりましたところ、昨年11月10日の第4回湘南支部定例総会にて毎月第2土曜日藤沢会館の2階に自由に集まり、会員相互の交流と相談利用の場として集まれば最初は1人でも2人でもよいから順次その軸を拡大していけば目的が達成できるのではとの意見が全員一致で可決されましたので、早速昭和60年1月12日の第2土曜日から費用はしばらくの間は富所氏が負担してくれるというので実行致しましたが、たまたま市民会館が2月末まで改装工事に入ったため、会員との連絡が取れず会場不明で帰った者が多く16名しか集まれませんでした。これから随時連絡を密にして集まりを多くし活発な支部活動を展開して初期の目的が達成できるよう大いに期待しております。

大分長くなりましたが以上が湘南支部の近況であります。どうぞ校友の皆様湘南に参りましたら藤沢駅前の事務局に御来所下さい。お待ち申し上げております。

私達の支部が少しでも他の支部の参考になれば誠に幸いと思っております。

(大学機械5回卒) 湘南支部副支部長 杉山助一  
(三木プーリー(株)相模原工場工場長)

(大学化学3回卒) 湘南支部副支部長 丹羽宏三  
(丹羽国際特許事務所所長)

(大学化学1回卒) 湘南支部支部長 富所良二  
(日本エネルギー(株)代表取締役社長)

## 相模原支部

支部長 清水 利治

神奈川県4支部の内の湘南支部より分離した新しい支部でテリトリーは県南部より綾瀬、大和、座間、厚木、相模原の各市及び津久井郡の町がその範囲となり隣に町田、八王子、山梨県と境いしております。新しく発足したために、役員構成は各市及び郡部に副支部長を置き他に校友会担当副支部長及び会計、監査で支部業務を担当する事にしてあります。本校の卒業生は各市町村及び各企業において活躍しておられる方が多数あります。北部地区は八王子に近い関係から高校の卒業生が多く、支部設立総会の通知に対して約400名の返答があり、今後如何に支部活動に継げるかという事が最大の眼目になると思われる。役員一同で力を併せて案を練り、また先輩支部のご指導を賜り立派な支部に育てていきます。

支部事務所所在地

神奈川県相模原市旭町8-22番地

☎ 0427 (42) 5413

☎ 夜 0427 (43) 1010

支部長	清水 利治
副支部長	校友会担当 吉岡 陽一
〃	相模原担当 伊勢 明
〃	海老名担当 外山和左久
〃	大和 担当 雨宮 孝祐
〃	座間 担当 古川 正也
〃	綾瀬 担当 谷 正美
〃	厚木 担当 宇津木一之
〃	津久井担当 八木 猛
会計	栗原 優
監査	小川 一夫・勝又 一男

## 悼 南 喜八郎氏

法人評議員、校友会理事、組織部長南喜八郎氏には、3月始めより健康を害せられ、下谷永寿病院に入院加療中のところ、薬石効なく去る3月28日永眠されました。台東区松ヶ谷曹源寺において3月30日通夜、3月31日告別式が行われ、校友会関係からは花輪を多数捧げ、前島校友会会長ほか校友大勢が参列して盛大な葬儀でありました。永い間経理部長等の要職で貢献された御功績を讃え皆様とともに虔んで哀悼申し上げます。(角田)



## 福岡県支部の活動状況

福岡県支部長 関野 輝次  
事務副長 清水 一義

福岡県支部は、先輩方の努力により現在北九州を含め135名の支部会員を確認しています。二年前までは、年一回の支部総会を開催し支部の充実に努め支部会員の拡張を図ってきました。その間建築学科波多江教授の協力によりスライド等による講演会、福岡県庁職員である渡辺昇（建5）氏及び近大建築科助教である小野正行（建7）氏支援による旅行会と大分地震に関する勉強会等会員の親睦に努めてまいりました。又、昨年は工学院大学地方父母懇談会に出席する機会を得、在学生父母の方々に支部会員の活動状況を報告致しました。北九州においては、久保建築設計事務所の久保隆邦（建4）氏が活躍し、昨年単独に忘年会を催し、20名程の参加を得たとの報告を受けています。福岡県支部としては、昨年より支部総会開催の計画を立てていましたが、なかなか機会を得ず開催にいたっておりません。しかし、支部会員の強い要望もあり近く総会を開催する予定です。

福岡県支部の基礎は充実しており今後いろいろな活動を通して会員相互の親睦と支部発展をきしたいと思っております。

福岡市、北九州市には東京、大阪に本社のある支店が多く、転勤により福岡県に在住し福岡県支部に入られる卒業生があり、この人々との連絡がもっとスムーズにとれたらより福岡県支部らしい充実ができるのではないかと考えています。

## 北海道支部の近況

支部長 今野 正治

北海道支部、北海道全土に渡って当支部に登録されている会員が260名おります。

北海道を5つの地区にわけて、会員の分布状態を見ると、

札幌江別小樽方面	139名
室蘭函館方面	47名
釧路根室方面	13名
網走方面	21名
旭川帯広方面	40名

計	260名
であり又科目別にわけて見ると、	
建築土木	100名
化学	54名
機械	60名
電気	33名
造船	12名
航空	1名
計	260名であります。

私が支部長をおおせつかって6年になりますが、これらの方々と郵便、電話にて連絡を取っております。年々、年を取られた方々はへって行き、それに反して若い方々がふえて参りました。

前支部長の時代には年寄が、多く大会に集まりましたが、今では若い方々が大会に集り、種々の話に花をさかせております。

当支部は毎年2月に大会を開いております。それは仕事が一番ひまな時という事で2月が一番集まる人が多いからです。

一番困るのは住所不明者が年々ふえている事です。そのため年々名簿より名が消えて行く人が10名位おります。また老年の方々が年々亡くなられて行かれる事は非常に残念でなりません。ついこの間電気73期の洪川勝良兄が亡くなされました。私と副支部長の馬淵寛志兄と共に自宅に焼香にあげりました。その当日猛吹雪でハイヤーに乗って行ったのですが道が悪く時間がかかりました。ようやくたどりついたら、家には鍵がかけられ留守でした。ポストの中に名刺と香典を入れて帰って参りましたが二日後に礼状が届きました。

役員会は1月初めか、12月に開いております。その他は電話で連絡を取り合っております。

昨年の大会には組織部長の南喜八郎氏が出席され、北海道は非常に盛会である。一生懸命やって下さいと喜んでいただきました。私共は非常に意を強くしました。

## 千葉県支部総会開催

日時	昭和60年2月17日 1時
場所	船橋市夏見1-16-38
会場	パールホテル・ブライダルシャトー
出席	来賓6名、会員41名

○役員改選で島田金次氏より新千葉県支部長に佐藤正吾

氏（大学建築昭和35年卒）を選出しました。当日の出席者は8割が青壮年会員であり、後援会編集の工学院大学紹介のテープ入りスライドは大変好評でした。その後の草野常務理事、長坂会長代理、相野谷後援会々長、金尾組織担当理事、落合支部長会議副会長、鈴木専門学校主理の挨拶があり、会員の自己紹介、カラオケも熱気あふれるもので来年又合おうとの拍手の中で、5時30分散会した。なお、佐藤、大島、氏家氏の奥方達3人が受付、ホステス役、カラオケ等のサービスをして下さり、今回の千葉県支部総会を盛り上げて下さった事を感謝致します。なお今回は会員多数による通信費増のため、賛助会員、前回連絡会員等にしばらく550名程度に開催通知致しました。出欠通知のない方で次回千葉県支部総会、懇親会に出席希望の方は佐藤会長宛に御連絡下さい。

(☎0474-48-4811 信用建設内) (小高記)

## 静岡県中央支部

支部長 古屋 留三

支部だより原稿を依頼されたが、不活発な状況でないので遠慮させて貰いたいと思う。

静岡県中央支部は清水地区を基盤に造船出身者で4分



の3をしめて昭和43年3月3日支部総会時には30余名の出席で清水駅前竹屋旅館にて盛大に開催、全員一致で支部長に推せんされ、毎年総会と有志忘年会が開催されてきましたが、昭和49年以降の造船不況と、石油ショックによる清水地区産業界の不況は会員が四散しそれぞれ新しい就職先で働いているのですが、当初のようにはいかず、支部長も西部浜北市に勤めの関係で10年地元地区を不在にしたため、全く総会開催が出来ず、その後も「有志会」として年末に同窓の健康をお互いに祝福しつつ飲み会を持っています。13~15名出て来ます。

本部との連絡は密にと、支部を代表して出席はして参りましたが、支部会員に総べてを伝えるという事にはなっておりません。（落合康夫支部拡充部長でありました時は自宅へTELあり支部長会には必ず出席せよ、と要請もありましたので出席していました）

## 賛助会費徴収のお願い

会長 前島 為司

本会員の皆様には、校友会事業活動に対し常々御協力御援助を賜り厚く御礼申し上げます。

校友会の活動充実の為の運用資金援助として皆様より賛助会費徴収をお願いしておりますが、59年1月の理事会にて規定の一部を下記の通り改め、より一層の御協力を頂きたく振込用紙を同封いたしましたのでよろしくお願ひ申し上げます。

記

### 賛助会費取扱い規定

本規定は定款第6条（賛助会員この法人の目的事業を後援し、5万円以上の寄付金を寄贈した者）の他本会員の賛助会費について定める。

第1条 賛助会費を次の条件で分納することができる。

1. 毎年2000円以上を納入すること。  
(2000円を単位として増額できる)
2. 合計が5万円以上になるまで毎年払いつづけること。

第2条 賛助会費は次のように使用する。

1. 70%は積立てて目的を定めて理事会の承認を得て使用する。
2. 30%は交付金として納入者の所属する支所へ交付する。

第3条 交付金は明細を年1回支部長に通知し支部長の請求により交付する。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせていただきます。

## □ 近 況 報 告 □

### ◇学校法人◇

★本学園関係者の叙位・叙勲等受章について（昭和59年4月～12月）

故竹内五一 元名誉教授が正五位（5月14日付）、阿部隆介 元名誉教授が勲四等瑞宝章（7月16日付）、高等学校遠藤鎮雄校長並びに生産機械工学科山口章三郎教授が産業教育100年記念教育功績者（11月20日付）を各受章しました。

★寄付受贈等について

下記のとおり寄付がありました。

校友会からの植樹寄付。カシオ計算機(株)常務取締役役櫻尾幸雄氏から奨学基金として300万円。山下電気(株)から高分子研究のための補助として240万円、竹中工務店から大学研究基金として2,000万円。日置電気(株)から同社創立50周年を記念して、高等学校並びに専門学校に教材用計器、コンピュータサービス(株)からNECマイコン一式、オイルス工業(株)から摩擦・摩耗試験器1台、東邦電子(株)からハンドヘルコンピュータPC8201 5台、積水化学工業、中央電気工業(株)、日本化学技術(株)から共同研究用テレファックス専用電話回線及び同付帯工事費そして8万円。大学後援会から工学院大学後援会学生応急貸付金基金として3,000万円、白樺湖学寮にOHP1台、ストーブ2台、軽井沢学寮にOHP1台、毛布カバー、女子学生控室にロッカー、テーブル、椅子等の現物寄付。高等学校PTAから擬木ベンチ7台、空冷ヒートポンプエアコン一式、ビデオデッキ、カラーテレビの現物寄付。

★工学院大学学園振興資金応募状況について

12月26日現在

払込件数 506件（前年同時期 407件）

払込金額 61,735千円（前年同時期 43,420千円）

但し、大学在校生父母の寄付金 37,535千円

専門学校夜間部に電子情報科新設について

電子情報科の社会的ニーズが高いこと及び昭和57年度に昼間部に電子情報科を設置済で、教員、実験機材が整備されていることなどにより、専門学校夜間部の電子情報科（入学定員80名）を昭和60年度から新設する。

★八王子校舎排水処理施設について

昭和57年の水質汚濁防止法の適用により、排水処理施

設の設置が義務づけられ、旧学生部室棟跡（食堂棟西側）に建設された。

総工費は 417,000千円（内管路工事 148,000千円）で、59年8月竣工した。

排水処理施設の概要

管理室面積 67.85 m<sup>2</sup>

処理場面積 1,285.63 m<sup>2</sup>

計画日平均汚水量 570 m<sup>3</sup>/日

処理方式 2次処理 長時間曝気法

3次処理 接触曝気+生物ろ過

構造 鉄筋コンクリート造2重スラブ構造

★八王子校舎厚生棟について

1号館・2号館の全館を教学関係の室として利用すること及び八王子校舎に設置されている教育用コンピュータ端末機の増設をするため、現在1・2号館内に入っている生協売店・学生自治会室等を収容する厚生棟を建設、59年12月竣工した。

厚生棟の概要

床面積1階 341.48 m<sup>2</sup>

2階 355.73 m<sup>2</sup>

合計 697.21 m<sup>2</sup>

建物規模 地上2階建

構造 鉄骨造

八王子整備拡充計画に基づいて、上記建物の他に現在、3号館（製図室、講義室等）の建設が進められており、60年3月竣工予定である。

また、さらに5号館群（実験室、研究室等）の建設が引続き予定されている。

（文書係 阿部正則）

### ◇大 学◇

★卒業式 はばたく 1,286人

昭和59年度、学部卒業式および大学院学位授与式は、3月22日に本学隣りの京王プラザホテルのコンコールドホールで挙行政された。

新しい門出を祝って伊藤学長から「次代への期待」の式辞につづき、高山理事長から祝辞があり、「学園将来計画での都心型大学の構想」の展望が話され、卒業生1,286人が、学園の将来を夢見、また、日本の科学技術

の次代を背負い有為な社会人として学窓を巣立っていった。

なお、ホテルでの卒業式は、昨年度につづいて2回目であるが、今年は式典後、同一会場で卒業記念祝賀会が併せて行なわれた。学長並びに大学後援会の相野谷会長からの挨拶につづき校友会々長の代理長坂副会長の乾杯で進化した。従来に増して「都心型大学の構想」をもつ本学にふさわしい華やかな雰囲気であった。

なお、卒業式および祝賀会開催に当っては校友会、同窓会ならびに大学後援会から多大の費用援助をいただき厚くお礼申し上げる次第です。

★昭和59年度卒業生数と就職状況について

卒業生数と就職状況を示すと（表-2）のとおりで、卒業生は第1部1,101名、第2部148名、大学院博士課程1名、修士課程36名、合計1,286名で在籍者数に対する卒業率は第1部73.8%、第2部41.6%であるが、卒業論文着手者数に対する卒業率は第1部98.3%第2部89.6%となっており、例年に似た傾向である。

就職状況は今年度も例年通り好況で、1・2部の就職希望者（1,216名）全員が就職を決定した。就職決定者に対するアンケート調査の結果では、Uターン就職者32%を含め、ほぼ100%、就職先に満足している回答をみることができた。

（表2）昭和59年度卒業生の進路

学科	卒業生数	卒業生の進路		就職者の内訳			
		進学者	就職者	一般企業	教員・公務員	自家営業	その他
機械	247名	1	246	225	9	4	8
生機	49名	0	49	44	0	2	3
工化	122名	6	116	93	6	4	13
電気	84名	4	80	67	3	0	10
電子	143名	5	138	124	5	1	8
電子工学情報	157名	3	154	142	2	0	10
建築	112名	2	110	109	0	0	1
合計	335名	17	318	284	4	4	26
合計	1,249名	38	1,211	1,088	29	15	79

★昭和60年度志願者状況について

昭和60年度は、新課程の学習指導要領に基づく最初の入試であり、高校卒業生がひのえ午生れによる受験人口が史上最低の年という要素を含みスタートした。

したがって、60年度の志願動向を見る上での一応の基

準として、前年並みの志願者があればアップ傾向、前年の90%から95%程度なら横バイという考えが一般の予想であった。

本学の志願者数は、前年に比べ4.8%増と4年連続のアップとなった（表1参照）

（表1）60年度学科別入学志願者数・合格者数

部	学 科	定 員	志願者	対前年度増・▲減	合格者
第1部	機械系学科	180	4,137	324	629
	工業化学科	80	1,594	483	265
	化学工学科	50	738	▲192	150
	電気工学科	90	1,878	▲222	353
	電子工学科 （電子工学コース） （情報工学コース）	90	3,631 (2,135)	216 (116)	501 (300)
計	建築学科	150	2,448	49	466
	計	640	14,426	658	2,364
第2部	機械工学科	120	509	271	90
	工業化学科	90	175	56	47
	電気工学科	110	449	89	104
	建築学科	110	384	151	73
計	430	1,517	567	314	
合計	計	1,070	15,943	1,225	2,678

★60年度地方父母懇談会について

60年1月26日（土）に本年度第1回の大学後援会支部長会議が新宿校舎において開催された。大学から学長および常務理事らが出席し学園の近況報告と学園の将来計画などについて、また、各支部からは支部活動状況および今後の支部活動方針などについて報告があった。次いで本部から60年度の地方父母懇談会の日程案について説明があり、5月18日北陸支部を皮切りに全国22カ所で開催することが決定した。校友の方々にも何かとご支援、ご協力をお願いいたします。（記60・3）

★学長選挙について

次期学長の選出について、59年11月に次の5教授が候補者に選出されました。

伊藤鄭爾、今井 功、尾佐竹 洵、北郷 薫、山口章三郎

学生による投票を経て、大学教職員による第1次選挙で候補者が次の3名に選ばれた。

伊藤鄭爾、尾佐竹 徇、北郷 薫

専任講師以上による第2次選挙が行われたが、得票数が過半数に達する方がなく、次の2名による決戦投票が行われた。

伊藤鄭爾、北郷 薫

専任講師以上による決戦投票の結果、機械工学科主任教授の北郷先生に決定した。任期は60年4月1日～63年3月31日です。

新学長略歴

大正11年11月生

昭和19年9月 東京帝国大学第一工学部機械工学科卒業

昭和24年9月 同大学院特別研究生後期修了

昭和24年10月 工学院大学助教授

昭和37年3月 工学博士（東京大学）

昭和37年4月 工学院大学教授

昭和41年6月 東京大学教授

昭和41年6月 工学院大学兼任講師

昭和58年2月 同教授

昭和58年5月 東京大学名誉教授

昭和58年7月 工学院大学図書館長

昭和59年4月 機械工学科主任教授

(文責 高橋)

## ◇高等学校◇

☆三棟整備計画

念願久しかった大学三棟の移管が本決まりとなり、とりあえず大学三号館の完成に伴って、来年度は製図棟及び実験棟二棟の二階部分が高等学校側に引渡されることになりました。

それを受けて早速高校側で整備利用計画が立てられ、理科実験室、視聴覚・音楽共用の選択教室、電気科製図室、機械科、建築科工作室などの増設が決まりました。現在既に設計も終り、近く工事に取りかかる運びになっております。

この後、大学の5号館が完成を見れば、来年度には残された実験二棟の一階部分が引渡され、そこには食堂及び各クラブのロッカー室を兼ねたトレーニングルームが新設される予定です。

ともあれ、当面これによって、会議室や図書室までも教室に代用していた不便さや、狭い工作実習室の不自由

さから解放される日も近いことでしょうか、それより以上に、我々の目指すより充実した教育への一つの足場が出来るとの喜びと期待は更に大きいものがあります。

また61年度の予定に入っている食堂の新設は今回の計画の最大眼目の一つでもありまして、実用的な便利さの他に、生徒の生活指導面に関しても従来以上に徹底できる大きな利点があると思います。

☆クラブ活動

野球部——59年度秋季大会において、16ブロックの決勝まで進出し、8対3で安田学園に敗れましたが、春季大会の出場権を獲得しております。

バレー部——昨秋の武相大会では出場16校の中で3位に進出しました。

自然科学部——「熱パイプから発生する音の研究」を日本学生科学賞審査会に出品、東京地区の優秀賞を得ましたが、部員一同狙っていた優秀を逸して残念がっております。

☆進 学

現在決定を見ているのは、工学院大学推薦内定者 121名、工学院大学専門学校推薦合格者24名程度ですが、他大学を目指す者が国公立志望の8名を含めて約30名おりますので、2月中旬以降の朗報を期待しているところです。

☆就 職

経済界の景気回復傾向を映して大変好調です。学校幹旋希望者66名に対し、求人は700社1,700名余りで、1月中旬現在95%強の63名が決定しております。しかも就職先の70%近くが一部上場企業で、主なものは次の通りです。

岩崎通信機、東芝、日本電気、三菱電機、沖電気、日本電気、日産自動車、日野自動車、いすゞ自動車、日本ラジエーター、小西六、蛇の目ミシン、日本フィルコン、京王電鉄、京王自動車等。

☆遠藤校長に文部大臣賞の栄

昨秋11月20日、国立教育会館で天皇陛下ご臨席の下に催された、産業教育百周年記念式典に際し、遠藤鎮雄先生は本大学の山口章三郎先生と共に、永年にわたり我が国の産業教育に尽瘁された功績を讃えられて、文部大臣表彰の栄を受けられました。

本学園並びに高校の歴史にまた一つの輝かしい一ページが加えられたものと言えましょう。

(教務主任 宮越美知夫)

## ◇専門学校◇

○第1回球技大会

59年5月20日、八王子校舎のグラウンド、コート、屋内体育館等において開催しました。各クラス毎にチーム編成し、別に教職員チームも加わって、トーナメント試合で、バレーボール、テニス、ソフトボール及びリレーの4種目に覇を競い、大変盛会でした。

本校三大行事の一つとして、昭和28年第1回以来、58年第30回まで連続と続いた大運動会が、学生の意識調査の結果によって衣替えし、今回初めて行われたものです。

○夜間部・秋最後の卒業式

10月7日、夜間部第184回卒業式(43名卒業)、建築科研究科第20回卒業式(24名卒業)を旧館地下講堂で挙行しました。

本校が専修学校と改名した昭和26年以来今年までずっと続いた春秋2回の卒業式も、来年度からは春だけとなります。

○昼間部推薦入学

12月6日、面接試験を行いました。昨年度の推薦入学者の学業成績が意外に良くなかったため、今回は相当厳しくされ、特に学習意欲と高校での欠席日数が可否の決め手となりました。

( )内は昨年度実績

科	志願者	合格者	入学手続完了者	昨年度との差	入学手続率
土 木	16名 (18)	16名 (17)	13名 (16)	-3名	81% (94)
機 械	51 (53)	35 (49)	33 (49)	-16	94 (100)
建 築	85 (90)	78 (60)	76 (60)	+16	97 (100)
電 技	25 (21)	22 (21)	21 (20)	+1	95 (95)
電 情	39 (43)	27 (37)	27 (36)	-9	100 (97)
応 化	16 (13)	14 (13)	13 (12)	+1	93 (92)
合 計	232 (238)	192 (197)	183 (193)	-10	95 (98)

○求人・就職状況

求人数は昨年度比40%増、求人会社数 2,724社は25%増です。就職内定者の約半数130名が資本金1億円以上の企業です。就職希望者(登録者)で応募しないのは、留年懸念組と鞍替えを狙う者で、応募者の内定率は92%です。

(1月19日現在)

科	求人数	2年 在籍数	就 職 希望者	就 職 応募者	内定者	進学	自営
土 木	昼 248 夜 67	50 24	28 5	19 3	15 1	2	20
機 械 (含船・金)	昼 742 夜 270	79 40	72 10	64 4	63 4	1	3
建 築	昼 524 夜 163	115 66	92 26	75 13	69 12	4	13
電 技 電 気	昼 1,022 夜 301	54 20	48 6	41 5	35 4	1	4
電 子	昼 1,253	75	70	62	62	2	4
応 化	昼 253 夜 74	40 16	36 8	32 4	30 2	1	1
計	昼 4,042 夜 875	413 166	346 55	293 29	274 23	11	45
合 計	4,917	579	401	322	297	11	45

○夜間部電子情報科新設

1月16日、既設学科と同時に募集を開始しました。今、企業が最も求めているコンピュータ制御関係の技術者育成に焦点を合わせたものです。企業内再教育の場としても、利用して頂けるのではないかと期待しています。

その特徴は、①カリキュラムはハード7、ソフト3とハード重点です。②実験・実習を週3回と重視し、実際のデバイス試作によって技術を体得させます。③実用的技術、小回りのきくノウハウを伝授します。④時間不足で正科に組めない一般理論(数学、システム言語など)は夏休み中に補講します。

校友の皆様のご支援をお願い致します。

(校務長 安原 豊)

## □校友会各部会報告□

### □ 総務部 □

学園評議員会における校友より選出の評議員の活動報告

第101回評議員会 (59・4・1—日)

議長、理事、監事選出 (昨年の会報に記載)

第102回評議員会 (59・5・31—木)

○昭和58年度決算総数 8,961,676千円承認

○予算検討委員に下記評議員を選出

内山太、榎本忠良、高橋孝治、富所良二、山崎隆一

○建設委員に下記評議員を選出

内山太、榎本忠良、小高鎮夫、篠原梅吉、南雲芳夫

○昭和59年度学園将来計画委員に下記評議員を選出

南喜八郎、間宮真佐人、富所良二、南雲芳夫、長坂舜

二、山崎隆一、溝上俊治、井出英人、北沢与一、住野

和男、高橋孝治

第103回評議員会 (60・3・)

○昭和60年度予算総額11,602,010千円承認

○八王子校舎整備拡充計画承認

○創立百周年記念事業の推進計画承認

第35回予算検討委員会 (59・5・8—火)

第36回予算検討委員会 (60・2・26—火)

第7回建設委員会 (59・5・25—金)

第8回建設委員会 (59・6・18—月)

第10回建設委員会 (59・12・19—水)

○八王子校舎整備拡充計画等について

又新宿再開発には臨時建設本部を設置予定

第9回評議員会建設委員会 (59・7・23—月)

○八王子校舎整備拡充計画について

第5回学園百年史編纂委員会

第12回学園将来計画委員会

○各分科報告

昭和59年度の校友会活動を理事会その他の活動を通じてご報告いたします。

第1回理事会 (59・4・13—金)

議事 1. 58年度決算について

2. 評議員会・総会議題について

3. 功労者感謝状贈呈について

4. 全国大会について

第2回理事会 (59・9・20—木)

議事 1. 年間行事後半の計画について

第3回理事会 (60・2・15—金)

議事 1. 60年度予算並事業計画について

第4回理事会 (60・3・19—火)

議事 1. 60年度予算について

2. 経理事務コンピューター化について

3. 公認会計士について

4. 会報発送方法について

5. 学園将来計画について

昭和59年度事務報告

1. 会議の開催状況は下記の通り。 (回数)

評議員会 (59・5・27) 1

総会 (59・5・27) 1

理事会 4

常任理事会 9

総務部会 5

財務部会 9

企画部会 3

広報部会 4

事業部会 2

組織部会 3

第6回全国大会 (59・11・10)

新年懇親会 (60・1・13)

この外、各種委員会等が多数開催された。

### □ 財務部 □

○その後の財務部

校友会々報第105号 (昭和59年4月) で報告のとおり、経理部から財務部に生れかわった部として、部員一同は校友会の財政をより豊かにするための会議を、他の部会とかち合わぬ日程を最大限に活用して会議を開催した。会議は、現在の校友会本部や支部の現状を深く検討し、現状下で出来る方法を考え実施することとした。このうち重なるものは次のとおりである。

1. 賛助会員名簿の作製

A. 支部を対象とした、支部別の入金人員、入金総額、支部割戻金の一覧表および、B. 支部別の賛助会員とその入金、累計一覧表を作製し、これを支部長と各会員とに送付した (この送付によって、多数会員より納金あり、効果は大であったと考えている)

2. 賛助会員懇親会の開催

賛助会員は、校友会員のうち、住所の変更がなく且つ愛校心の強い方々である。懇親会を開催し相互の親睦を図ることは意義のあることと考え下記により、懇親会を開催した。

記

日時 59年10月19日午後6時～8時半

場所 講演会場、工学院大学第一会議室

懇親会場、工学院大学第二会議室

講演 (1)学園の現況と計画 学長 伊藤鄭爾

(2)特別講演「画像情報の付号化」



第6回全国大会 (於江ノ島)

電子工学科主任教授 南 敏

懇親会 学園の先生方を囲んで懇談した。

3. 賛助会員の増加対策

賛助会員の制度は本部の発展策であるばかりでなく、支部の育成策でもある。その基盤である支部のあり方の改善こそ、目下の急務な事柄であると考え。各支部の会員数について少し調査してみると、百人内外の支部から数千人以上の支部員を有する大支部もある。また面積も、大小さまざまである。これを正常な運営が出来るように、本部はよい案を企画して、支部と協議の上、支部の合併や分割を行なうべきである。これによって、支部の発展はもちろん、本部の発展は、めざましいものがあると考え。

### □ 企画部 □

企画部は現在までに4回の部会を開きました。そこで議題となりましたことの詳細については紙面の関係から省略いたしますが、基本的な事項を述べさせて頂くとすると、企画部とは何をなすところかという、原点についての話し合いが行われました。その結果、企画部は大学の将来計画を含めた校友会全体の問題を話し合う場であり、さらに企画部自体のプランニングをするところであるということ意見の一致をみました。また議題の1は校友会の活動の活性化についてで、会員のサービスを考えて、魅力的な会にしたいとの意見があり、そのためには大局的立場より校友会は何をなすべきかをもう一度熟考してみる必要を感じています。2は校友会の学園に対する協力につきましてで、両者が、あたかも車輪の両輪であるのが理想的であるという観点より、研究資金の補助、名簿の整備、事務局の充実などで協力することが確認されました。

また校友会の中に「工学院大学の将来計画を考える会」の設立を提案しようという意見が出され、素案を次回部会に持寄ることが決まりました。

### □ 事業部 □

○全国大会 (江ノ島大会) 報告

昭和59年度、恒例の全国大会は11月10日 (土) 校友会神奈川5支部 (湘南・横浜・川崎・相模・小田原) 主催のもとで史蹟の島・風光明媚の島を一望できる江ノ島グランドホテルにて「江ノ島大会」の名のもとに久保田伴治大会運営委員長を中心として開催いたしました。当日は大学法人から理事長の高山先生を始め山本化学工学科主任教授・磯部電気科主任教授・鈴木専門学校校長先生の御来賓の出席を賜り、また多大な寄付をいただき心から感謝致します。会議は午後3時より多数の会員諸兄参加のもとホテル会議室にて開かれ高山理事長より大学の近況報告、学園の将来計画等の説明があり質疑応答が盛んに行なわれ有意義な会でありました。午後5時30分より記念撮影 (後、会宴になり意気満々のもと楽しく夜遅くまで旧交を温め盛大のもと閉宴することができました。翌日朝食後、希望者のみ観光バスにて古都鎌倉の寺社 (長谷観音・大仏・鶴ヶ岡八幡・鎌倉宮・建長寺) 等を見学し歴史をかえり見、昔をしのび有意義な一日を過ごすことができました。無事成功のもとに終わらせた事は会員諸兄の御協力の賜もの御蔭、感謝し御礼申し上げます。

○新年懇親会報告

昭和60年度新年懇親会は大学の新宿校舎8階の会議室にて開催いたしました。当日は大学法人より学長の伊藤先生を始め多数の御来賓出席のもとに会員諸兄多数参加され、なごやかなうちに楽しい一日を過ごすことができましたことを感謝致しております。また大学、会員諸兄より心あたまる寄付をいただき御礼申し上げます。61年度の新年懇親会は風光明媚な所にて、ゆっくりと温泉につかり旧知を温めながら開催したいと思いますので会員諸兄多数の参加をお待ちしております。

文責、事業部理事 青野 毅